

朝の礼拝

聖書 ヨハネの黙示録 21 章 3-4 節 (旧約聖書 477 頁)

3 そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、4 彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもは過ぎ去ったからである。」

人と共にいて

聖書の初めは天地創造の神話です。そして最後はキリストが再臨して裁きを行い、神の国を完成する黙示、幻、ビジョンが示されて終わっています。その場面が今日の聖書箇所です。

天地創造には神様が造られたものすべてが「極めて良かった」(創世記1章31節)と記されています。それは「とても素晴らしい」という意味です。そして今読みました最後の場面には「神が人と共に住み、人は神の民となる」、「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。」とありました。聖書は神話や物語を通して、一貫して平和で秩序のある神様と自然、そして人間の姿を伝えています。

先週末から昨日まで、学校関係研修会の講演、また教会の日曜礼拝説教のため福島県に行って来ました。すでに半年ほど前から依頼されていたことでしたが、まさか10月のこの時期に大型台風と大雨が福島県を襲い、甚大な被害をもたらすとは思いませんでした。

東日本大震災の津波で被災した原子力発電所事故は、コストや利益を優先するあまりに地震や津波などへの備え、また原子力の脆弱さ(ぜいじゃくさ)と危険性を認識できていなかった人災です。そして温室効果ガスにより地球のオゾン層を破壊し、地球に温暖化を

招いて巨大な台風を発生させているのもまた人災です。

人間の知識、技術、知恵、そしてそこから生まれる富は、私たちに与えられた恵みであり、賜物です。しかし私たちはその賜物を何のために用いているでしょうか。それをしっかりと見つめ、考え、生きることが、私たちのミッションです。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは聖書に平和で秩序あるあなたと自然、そして私たち人間の姿を示して下さいました。今、災害によって逝去された方々の魂の平安と、残されたご家族、特に避難生活にある方々を覚えて祈ります。どうかあなたから与えられた知識、技術、知恵、そして富をあなたの御心に適うように用いさせてください。今日一日も一切をあなたに委ね、祝福のうちに歩ませて下さい。

主イエス・キリストの御名によってお願いいたします。アーメン